

2026年5月18日

学校法人三幸学園
神戸元町こども専門学校
校長 吉田 尚美 殿

学校関係者評価委員会
委員長 佐野 匠

学校関係者評価委員会実施報告

2025年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 上坂 資次 (社会福祉法人すずらんだい福祉会 認定こども園ななほし保育園 園長)
- ② 大村 昌史 (社会福祉法人勝原福祉会 尼崎長洲保育園 園長)
- ③ 塩崎 文乃香 (第8期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026年5月18日 (会場 神戸元町こども専門学校 401教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025年度 学校法人 三幸学園 神戸元町こども専門学校 自己評価報告書ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐々木 領矢

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長：佐野 匠

学校関係者評価委員：上坂 資次

学校関係者評価委員：大村 昌史

学校関係者評価委員：塩崎 文乃香

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務スローガン：想いを1つに

教務_退学率目標：7%未満、結果：3.8%

広報_募集目標：110名、結果：115名

② 学校関係者評価委員会コメント

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校としての教育目標や学科ごとの目指す人材育成像の設定はできているが、具体的な評価と体現に繋がっていない。

② 今後の改善方策

定期的な評価実施と評価から抽出される課題を計画的に取り組み、目指す人材育成像に一層近づけられる教育を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【各園に就職した本学の学生について】

<大村委員>

新卒者 4 名のうち、本校卒業生 2 名在職。職員同士や子ども、保護者にも笑顔で元気に対応できている。保育的なことはこれから指導をしていく予定。

<上坂委員>

本校卒業生3人(3年目・3年目(他法人で2年経験あり)・1年目)が在職。素直に法人についても理解しようとしながら頑張っている。まだまだ未熟な部分もあるが、周囲への配慮ができており、言葉がけや掃除などもできている。今後園の方で、引き続き指導していく。

<塩崎委員>

目上の方と話をする時や電話対応時などに、学生時代に学んだ言葉遣いが身についていたことを実感している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務の効率化を図ってはいるがより効果的な情報システム化が必要である。

② 今後の改善方策

ICT 授業ツールの浸透、授業準備や授業実施における効率化も図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【現場におけるICT普及状況について】

<上坂委員>

すでに園内でCTを使用しているため、現段階で今後普及予定ものは特にない。

<大村委員>

保育業界はまだアナログな文化が残っている。法人内ではペーパーレスを進めているが、「ICT」の中でも使用機器はタブレット、スマホ、パソコンの3種類があり、職員によっては機械関係の得意不得意もある。さらに多様なアプリや使用方法があり、研修をするにしても理解力が人によって異なるなど、複雑な内容となっているため悩んでいるのが現状。現場の使用方法につながるICTの学びを学内でぜひ展開してほしい。

<佐野委員>

高校では、学習の中でWordExcelをアプリ使用することよりも、ネット上で使用することが多い。専門学校に進学をすると時代が戻っている現状があるため、つながりを強めたい。

<塩崎委員>

園だよりについて、学校では紙での作り方は学んでいたが、就職後は園でパソコンを使っただけの作成だったため、作成に苦戦し何倍も時間がかかってしまった。パソコンでの園だよりの使い方なども授業で学べると良かった。

【本学における実習日誌の媒体について】

<上坂委員>

まだ、実習日誌は紙ベースの養成校が多いが、本校はどうしているか？

<山本さん>

2025年度生からはFujiフィルムシステムを使用して、デジタル日誌にて実習を行っている。

<大村委員>

考えられるデメリットはあるか？

<山本さん>

園でパソコンが1台しかない・園でのネット環境がない・新しいものを導入するための負担感を感じる園様もいるのが現状。

<上坂委員>

養成校同士で使用するツールの共有化ができると抵抗感も少なくなるのではないかと。実習生には実習を通して保育の楽しさを感じてほしいが、日誌が大きなハードルとなっている。業界のためにも、本校が引っ張ってほしいと思っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

業界との連携は引き続き強化していく必要がある。

指導力育成など資質向上のための研修は実施できているが、関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修は十分ではない。

② 今後の改善方策

実習や行事だけでなく授業においても関連分野の業界と連携できるよう計画を進める。

関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修の計画を進める。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【各園、高校における研修実施状況について】

<大村委員>

研修計画を基に研修を実施しており、業界で実施させているキャリアアップ研修にも参加をさせている。法人

内で姉妹園同士の研修も実施している。保育の研修はもちろんだが、職員みんなが幸せになれるように人間力育成の研修ができるようにしていきたい。

<塩崎委員>

1年目に幼児保育のキャリアアップ研修はすべて受け終わっている。乳児、障害児等も受講しており、早めに受講できるようにしている。

<佐野委員>

高校ではICT研修、階層別研修を実施している。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

前年比で大幅に退学率の向上を図ることができたので、継続できるよう教務体制を整えていくことが重要。卒業生の状況を把握しきれていない。

② 今後の改善方策

複数担任制の促進と効果的運用を行うとともに、スクールカウンセラーを効果的に活用していく。
卒業生とのネットワークの構築のために、卒業生が就職してお世話になっている園・施設への訪問を積極的に行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【教員による卒業生訪問について】

<塩崎委員>

少し慣れてきた6～7月頃に卒業生訪問があると、少しでも不安が減って頑張ろうという気持ちができると思う。

<上坂委員>

卒業生訪問のタイミングは五月病というものもあるので、5月頃に来ていただけると良いのではないかと。土曜日は比較的対応がしやすい。

<大村委員>

GW明けあたりが、ナイーブになるタイミングでもあるので来ていただけると良いのではないかと。午睡の時間帯や通勤間際だと対応がしやすい。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

クラス担任制で担任が主に生徒状況の把握を行っているが、生徒の多様化に対応し切れていないケースが多くなり、適切な相談対応が十分ではない。

卒業生への支援体制は一部構築しているが、十分に活用できていない。

② 今後の改善方策

スクールカウンセラーの運用体制見直し(機会の拡張)と、連携の強化を図る。

卒業生支援体制の活性化を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【卒業生と学校のつながりについて】

<佐野委員>

卒業生が相談をしに来校することは多い。卒業後だと高校としてできること、できないことがあるため卒業前に納得した進路決定ができるよう指導をしている。

<塩崎委員>

現場に出て不安になることが多いと思うので、学校の先生と話すことができると嬉しい。異動などで知らない先生に急に自ら相談することは難しいため、園に来てくれると話しやすい。

<佐々木さん>

10月18日に全卒業生対象の同窓会があるため、参加を促していただけたら嬉しい。

<大村委員>

一方的な配信だけでなく、卒業生や教員が入ったLINEなどを作っただけでなく、悩み相談などができるようなツールがあると良いのではないかと。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

避難訓練や不審者対策講習は年に1度程度であり、継続的な実施ができていない。

② 今後の改善方策

防災・防犯対策については半期に1度以上の実施を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【各園、学校での防災・避難訓練の状況について】

<上坂委員>

園では月に1度、防災または防犯、交通安全教室などを実施している。

<大村委員>

月に1度防災・火災訓練を実施しており、水防訓練や引き渡し訓練なども実施している。就職後にどんな訓練があるのか、学校にて周知ができるようになると良いのではないかと。

<佐野委員>

年に1回避難訓練を行っており、防犯マップや避難場所なども可視化して学生案内をしている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

継続的、安定的な入学者の確保。

入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

教育活動と連動した広報活動を行うことで、学校のブランド力を強化していく。

高等学校の職業教育と連携した広報活動を行っていく。

③ 特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第2.0版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の保護に努めてはいるが徹底という意味では十分ではない。

② 今後の改善方策

個人情報に対するパスワードの設定や郵送物への記録などを強化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【各園での個人情報管理について】

<大村委員>

個人情報の取り扱いは年々厳しく行っており、子どもに関する資料はすべて事務所に保管をしている。

また、日常で撮影する写真の取り扱いの意識付けを行っている。特に職員個人のSNSの利用に関する注意喚起

は行っている。安易に録画や録音などができるツールも増えているため、リスクも踏まえた日々の言葉遣いなども伝えている。

<上坂委員>

ICT機器などが誰でも手に届く場所に置きっぱなしにしてしまうことがありがちなため注意喚起をしている。退職後の情報管理に関しても誓約書を交わす、問題が起こらないように努めている。

<塩崎委員>

家で仕事をしたくても、家には園のUSBは絶対に持ち帰らない規則になっている。また、預かった書類はすぐに担当の先生に渡しに行き、どこに行ったか分からなくならないように気を付けている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

地域貢献活動を推進しているが、実施回数は多くない。
外部と関わるボランティアの機会を十分に提供できていない。

② 今後の改善方策

地域支援・産学連携の活動を、現場実習・卒業生が就業先としてお世話になっている医療機関と共に 計画・実施していく。ボランティア情報を集める仕組みを構築する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【ボランティアの受け入れについて】

<上坂委員>

ボランティアについて、4.5月 はバタバタするため受け入れは難しい。時間帯は子どもや職員の体制が整う9時以降だと受け入れしやすい。学生の授業後 15:00 以降になってしまうと子どもがほとんど降園してしまっているため、あまり学びにはならないかと思う。

<大村委員>

15:00 以降になってしまうと子どもは減ってしまうが、そのタイミングだからこそ学べる内容もあると思う。学生もプライベートの活動があると思うので、スポットで参加する事が学生にとっても有効的な参加方法になるのではないか。

<塩崎委員>

学生時代は、アルバイトや自分の予定を優先してしまっていたが、もし学生時代にボランティアに参加していたら、視野が広がり就職活動の幅も広がったのではないかと感じる。

<大村委員>

保育業界に学生アルバイトに参加している学生はどのくらいいるのか。
⇒クラスで3~4人いる。

<上坂委員>

アルバイトやボランティアについては、学校が後ろについているかいないかで安心感は全く違う。学校から依頼書一枚あると尚良いと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨今は大人・子ども問わず多様な価値観の尊重が一層重視され、多様性への対応も同時に求められている。当然ながら保育現場においては一層多様性への対応が求められるとともに、その難しさも課題として多く挙げられている。今後もそのような現場へ人材を送り出す保育の養成校として、現場の方々と密な連携・意見交換を継続させていただき、適切かつ社会に求められる人材を養成する学校運営を行っていく。

また、今回いただいた意見は担任を通して学生に還元していき、お世話になっている卒業生に向けてできることを実施していきたい。